

令和3年白老町議会人口減少に対応する政策研究会会議録

令和3年 3月24日（水曜日）

開 会 午前10時00分

閉 会 午前11時58分

○会議に付した事件

協議事項

1. 移住定住に関するアンケートについて
 2. 若者定住策のグループワーク（中間検討）について
 3. その他
-

○出席委員（8名）

座 長	大 淵 紀 夫 君	副 座 長	佐 藤 雄 大 君
委 員	西 田 祐 子 君	委 員	氏 家 裕 治 君
委 員	久 保 一 美 君	委 員	長 谷 川 か お り 君
委 員	貳 又 聖 規 君	委 員	森 哲 也 君

○欠席委員（なし）

○職務のため出席した事務局職員

事 務 局 長	高 橋 裕 明 君
主 査	小 野 寺 修 男 君
主 任	村 上 さ や か 君

人口減少に対応する政策研究会（第14回）

【調査事項】

事務調査：人口減少に対応する政策研究「若者定住」について

1. 移住定住に関するアンケートについて

- (1) 集計結果
- (2) 分析
- (3) まとめ（次回）

- 大淵座長 このアンケート結果は今後の議会活動に生かしてもらいたい。
- 小野寺主査 全体で 664 枚配布し、78.6%の回収率であった。男性が多い事業所が 2 つあった。そのほかの事業所は女性がやや多い傾向であった。
- 高橋局長 町外居住者へ実施したアンケートは珍しい。町民意識調査では町外居住者の意見は集められない。町民意識調査では住み続けたい人は 60%程度いるが、このアンケートでは 51.6%である。このことから、年代層による差が見て取れるかと思う。
- 大淵座長 家賃が高いという記述が多い。
- 氏家委員 課題山積のまちに住みたいとはなかなか思わないだろう。住環境を整えることと、公共料金が低いことが必要か。商業施設はそう簡単に出来るものではない。子供が新入学を迎える頃には、白老町を離れたいという人もいると聞く。
- 貳又委員 今回は調査項目に設定していないが、持ち家の有無を聞くとクロス集計による分析が可能になる。今後の提言につながるヒントが沢山見出せる結果である。
- 久保委員 よく耳にする話がこのアンケートでも回答されている。公共料金が高いと感じていても、一概に高いとはいえないと思う。子育て世代は子供を遊ばせる場所を必要としていることがはっきり分かった。
- 長谷川委員 町外居住者で住みたいと思う人が 27 名いるのはすばらしい。移住につながるようにはできないか。
- 西田委員 住み続けたいと思う人が意外と多いと感じた。家賃と公共料金の高さは顕著である。そこを企業がサポートするのは限界がある。だからこそ、そこには施策が必要なのである。
- 森委員 苫小牧西部地区でアパート住まいをしていたときに比較的安いと感じていた。今後、サンコープラスで対応できないだろうか。
- 大淵座長 上下水道料については、以前の政策研究会で資料を配付している。苫小牧市は 4,877 円と白老町より安く、登別市は 8,902 円と高い。安ければいいというものではないし、このようなことは上下水道料だけの話でもない。税について市町村間の比較はできるか。
- 貳又委員 固定資産税でいえば、税率よりも元となる土地の評価額に影響されると思う。住みたいと思っている人の傾向はどうなのか。ウポポイを当てにしている人がいるのかもしれない。企業ごとの傾向を確認することはできるだろうか。
- 小野寺主査 事業所が分かるように入力しているため、企業ごとの傾向は集計できる。
- 氏家委員 温泉付き住宅の活用方法をアピールする方法はあると思う。
- 大淵座長 若い年代層の人は戸建てよりアパートを選ぶ傾向があるのではないか。
- 佐藤副座長 住宅については二極化であると思う。子供が生まれると戸建てを選ぶ傾向がある。同じ家賃なら戸建てに住みたいと思う人は一定数いる。
- 氏家委員 子供を持つと住宅ニーズが変わる。空き家活用の施策は重要である。5 年後、10 年後の白老町を見据えてできることからやっていけたら。そこには白老町の魅力をよく知り生かすことが大切である。
- 佐藤副座長 今住んでいる人からは、白老町はやさしくないまちだと聞いたことがある。そうなる苫小牧西部地区の魅力は何なのか。白老町は子育て支援は充実しているが、それを知らない人が多すぎる。重要なのは都会にはないものを白老町でつくることである。自分の同級生が帰町したときに、白老町はいいまちだと思ってもらえるようにしていければと思う。まずは白老町の認知度を高めることではないか。
- 貳又委員 分析を大事にしたい。やはり深掘りしなければならない。今回の回答者の中で苫小牧市

の人の傾向はどうか。属性や企業はどうか。ターゲットをしぼったアプローチの仕方を考える必要があるのではないか。

○大淵座長 専門的な見方と町民目線の両方から考える必要がある。アンケート配布時の企業の話や反応はどうであったか。

○長谷川委員 最初は実家から通っていて、いざ一人暮らしを考えたときに、町内の手頃な家賃のアパートが見つからなかったという話があった。従業員が住まいを確保できるかは、最終的にその事業所の存続に関わると思われる。錦岡方面に家を建てて、そこから通勤する人が多いように思う。

○氏家委員 担当者とゆっくり話が出来なかった事業所もあったが、30分ほど話ができただけの事業所があった。そこでは、現場の声を聞きに来てくれてありがたい、今後も議会が活動している姿をぜひ見せてほしいと言われた。議員が議会活動としてまちを歩いて回ることの重要性を感じた。

○貳又委員 若い年代は町内での買い物の不便があるようだ。

○西田委員 そのような人は休日になると札幌などへ出かけるようだ。ウポポイでも議会の人に来てくれてうれしい、今後もコンタクトを取り続けていけたら、という話があった。

○森委員 今回訪問した福祉施設では農業の話になり、果物を栽培していると聞いた。視点を変えて取り組む姿を垣間見た。これらが新たな分野の活動へつながるのでは、と政策研究会のテーマからさらに幅の広い話ができただ。

○佐藤副座長 自分がアポイントを取った企業は、最初は否定的な反応であった。こんなアンケートをしてどうかと問われた。その後、アンケートを生かして、白老町の人口減少を見据えて取り組んでほしいと言われた。

○大淵座長 議員が訪問すると相手方が好意的に迎えてくれることが多い。印象の持ち方が変わると思う。

2. 若者定住策に関するグループワーク（中間検討）について

(1) 検討結果（グループ別、統合結果）

(2) 追加提案

(3) 今後の研究課題

○高橋局長 今回のグループワークで出された事業案を深掘りし、アンケートとの連動が必要である。

○大淵座長 総括シートの事業案を基に政策化や提言をしていけたらと思う。

○高橋局長 アンケートは事業所向けであったので、事業案はアンケートの該当項目と合わせていくとよい。人口を増やすには、雇用の場づくりから、人が増えるから、商業が発達するから、まちの税収が増えるから、様々なサービスが循環する、という仕組みがある。関係人口を増やすという部分もあり、まちの人を増やす手段が生まれてきている。

○氏家委員 やはり住環境が重要なのではないか。

○高橋局長 当事者と話さなければならない部分である。事業者と行政で何ができるか。事業者に補助をするのか、住人に補助をするのか。そして、家賃の高さの原因は何であるのかを探る必要がある。
・アンケートの中での深掘りについては、町外居住者で白老町に住みたい人の属性を調べて、対策を練る必要がある。

○大淵座長 アンケート結果から出された意見をまとめる。グループワークの結果は焦点を絞って取り組んでいく。

3. その他

(1) 若者定住策について町長（町理事者）との懇談

(※中間検討・アンケート調査を受けて)

○大淵座長 理事者との懇談会は実施するべきか。また、今実施する必要があるのか。

○氏家委員 もう少し研究を進めてから懇談してはどうか。

○大淵座長 理事者との懇談はもう少し研究してからにするのか、今までの研究をもって懇談するのか、どちらの選択肢もある。理事者との懇談については次回検討する。